

平成 21 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社フルキャストホールディングス
 代 表 者 名 代表取締役社長 漆 崎 博 之
 (コード番号 4848 東証第一部)
 問 い 合 わ せ 先 エグゼクティブオフィサー 北 川 太
 電 話 番 号 03-4530-4830

関係会社株式評価損（個別）の計上及びのれんの減損損失（連結）の計上
 ならびに平成 21 年 9 月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、当社が保有する関係会社株式のうち実質価格が著しく下落したものについて、平成21年9月期個別決算において下記の通り関係会社株式評価損を計上することといたしました。

また、同じく平成21年9月期連結決算において、のれんの減損損失を特別損失として計上することといたしましたのでお知らせいたします。

併せて平成21年8月5日に公表した平成21年9月期の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 21 年 9 月期における関係会社株式評価損の総額（個別）

(金額の単位：百万円)

	個別
(A) 平成 21 年 9 月期第 4 四半期会計期間（平成 21 年 7 月 1 日から平成 21 年 9 月 30 日まで）の関係会社株式評価損の総額 (=イーロ)	1,019
(イ) 平成 21 年 9 月期通期（平成 20 年 10 月 1 日から平成 21 年 9 月 30 日まで）の関係会社株式評価損の総額	1,019
(ロ) 直前四半期（平成 21 年 9 月期第 3 四半期）累計期間（平成 20 年 10 月 1 日から平成 21 年 6 月 30 日まで）の関係会社株式評価損の総額	0

※当社の決算期末は9月30日です。

◇ 純資産・経常利益・当期純利益に対する割合

(金額の単位：百万円)

	個別
(B) 平成 20 年 9 月期末の純資産	5,728
(A / B × 100)	17.8%
(イ / B × 100)	17.8%
(C) 平成 20 年 9 月期末の経常利益	2,100
(A / C × 100)	48.5%
(イ / C × 100)	48.5%
(D) 平成 20 年 9 月期の当期純利益 (※)	883
(A / D × 100)	115.4%
(イ / D × 100)	115.4%

※ 最近に終了した事業年度の当期純利益が損失計上のため、最近 5 事業年度の平均額としております。(損失の事業年度については 0 として計算してあります。)

2. 当社子会社に対するのれんの減損損失の計上について（連結）

上記1に伴い、オフィス事業における連結子会社である株式会社フルキャストマーケティングの評価算定を行い、のれんの減損損失668百万円を特別損失として計上いたします。

3. 平成21年9月期 通期連結業績予想（平成20年10月1日～平成21年9月30日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	57,573	△515	△778	△5,148	△15,951.56
今回修正予想（B）	57,293	△682	△925	△6,870	△21,288.47
増減額（B－A）	△280	△167	△147	△1,722	－
増減率（％）	△0.5	－	－	－	－
（ご参考） 平成20年9月期通期実績	98,989	1,647	1,530	△2,443	△9,222.68

4. 修正の理由

当社グループの事業を取り巻く環境は、依然として厳しい局面にあります。売上高につきましては、オフィス事業における通信商材の営業アウトソーシング事業が底堅く推移したものの、スポット事業において、主要顧客である物流、引越等の派遣需要が引き続き低迷したことなどから、計画を下回る見込みとなりました。

利益面では、「新3か年計画」に基づく事業リストラクチャリング実施の効果により、販売費及び一般管理費が計画以上に抑制できたことから、スポット事業は利益計画を上回る見通しとなりました。しかしながら、オフィス事業において、当第4四半期間に経営合理化の必要性が生じたため、早急に不採算事業等のリストラクチャリングや費用抑制に努めましたが、連結全体では、営業利益、経常利益ともに計画を下回る見通しとなりました。

また、特別損失として、上記2に記載したのれんの減損を含む減損損失1,016百万円に加え、テクノロジー事業において、希望退職者募集に伴う特別退職金118百万円、雇用調整支出金199百万円、本社移転費用193百万円等を追加計上することなどから、上記3に記載のとおり、通期連結業績予想を修正いたします。

以上